

新潟市アグリパーク要求水準・目標値(評価指標)

視点	評価項目	2020年度 評価指標	2020年度実績	評価	コメント
市民	入場者数	20万人以上/年	166,339人	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
		宿泊施設の稼働率 :39%以上/年	18.3%	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
	食育の推進	教育ファームカリキュラムの受講者 :27,000人以上/年	13,700人	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
	新規就農者支援	就農支援プログラムの受講者数 :600人以上/年	540人	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
	6次産業の推進	・食品加工支援講習会の開催 :70回以上/年 ・食品加工支援講習会の受講者 :470人以上/年	・食品加工支援講習会の開催 :51回 ・食品加工支援講習会の受講者 :309人	C	講習会の実施回数、受講者数ともに指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
	広報の充実	・HPの情報更新 :20回以上/年 ・アクセス件数 :12万回以上/年	・HPの情報更新 :283回 ・アクセス件数 :99,787回	B	アクセス件数は指標を下回ったものの、HPの更新回数は指標を大きく上回った
	利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	95.5%	A	指標を大きく上回った
財務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	指定管理収支が赤字	C	指定管理収支が赤字
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	適正に実施	B	指標のとおり
業務	安心・安全の確保	・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	・防災訓練:2回 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルを作成済	B	指標のとおり
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 :1回以上/年	1回	B	指標のとおり
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 :90%以上	100%	A	指標を大きく上回った
	関係団体・地域との調整	関係機関・地域との連絡調整会議の実施 :各1回以上/年	0回	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ :延べ1,000人/年以上	889人	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
	社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付 :延べ100人/年以上	71人	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による)
	施設の稼働	年中無休	23日(①4月20日～5月10日までの21日間を緊急事態宣言発令による新潟市の指示により休館②1月7日午後から1月8日午前中までの1日間を暴風警報発令によりお客様の安全を考慮し休館③1月9日午後から1月10日午前中までの1日間を大雪警報発令によりお客様の安全を考慮し休館)	C	指標を下回った(新型コロナウイルスの影響及び来場者の安全確保のため)
人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	適正に実施	B	指標のとおり
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 :1人あたり2回以上/年	22回/年	B	指標のとおり
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 :90%以上	93.1%	B	指標のとおり

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

令和2年度の総来場者数は166,339人となった。対前年度比で89%である。新型コロナウイルス感染防止対策に伴う学校園の休校や体験・イベント・講座等の中止を主に因に前年割れとなった。今後、新型コロナウイルス対策の徹底と新しい生活様式の実践を踏まえたうえで、さらに魅力あるプログラム・イベントの企画と集客確保が課題である。

教育ファーム関係では、学校は延べ118校、5,188人が来園した。前年度と比較して、利用学校は62校(4,045人)減少した。小学校の利用割合が最も高く、全体の76%を占めている。その他の学校種別では幼・保育園の8%、特別支援学校の5%、中学校の3%であり、特別支援学校の利用が徐々に増えている。月別の利用では、4・5月は新型コロナウイルスの影響により閉園となり、9月、10月の利用が多かった。宿泊利用の学校は、延べ10校(前年28校)で、全利用学校の8%であった。参加した学校の評価と満足度は引き続き高く、アンケートでは100%の学校から「農業体験学習を通じて、新しい発見や学びがあった」という評価を得た。教育ファームの課題として、学校関連では①ギガスクール構想に対応した新規プログラム開発②野菜栽培等にかかるインストラクターの資質向上など、一般向けは、①冬期間の体験プログラム開発など、引き続き利用者増と満足度向上に資するべく課題の解決に取り組む。

食品加工支援業務関係では、農業6次産業化のベースとなる食品加工の基礎を学ぶための講座を51回開催し、延べ309人が受講した。講座以外の加工室利用は延べ347回714人が利用し、加工室利用者の職業は94%が農業関係者であった。令和2年度では商品化された製品が17品、一次加工品が8品であったが、新型コロナウイルスの影響で過去最多であった昨年度と比べ43%減少した。また、加工技術相談の回数は162回で同様の理由から20%減少した。今後もニーズに沿った講座の開催、相談事項への適切なアドバイスの提供により、6次産業化支援に努めていきたい。

就農支援事業では、通年型の農業塾は新型コロナウイルス感染拡大の状況から中止し、就農相談業務では、常設の相談窓口にて新規相談者が12名(新規9名、後継ぎ3名)からあった。就農体験研修には、果樹栽培コース2名、野菜栽培コース5名が受講した。農福連携事業は、8施設延べ71名に、延べ23日にわたり障がい者の就労に向けた訓練を実施した。農業者の高齢化や担い手不足、障がい者の就労など農業には多様な課題があることから、新潟市アグリパークの就農支援事業もそれらに対応した多様な事業展開を今後も行う必要がある。

毎年開催していた、ふるさと祭「どんと焼き」など不特定多数を対象とする集客イベントは、新型コロナウイルスの関係で中止せざるを得ず、また地域のコミュニティや観光関連団体等との連携活動も実施できなかった。一方、就農希望者を対象にした「新規就農者応援シンポジウム」を他業種から就農した方をパネリストに初めて実施した。

次年度についても、コロナ禍の影響を見極めつつ、直売所やレストランとも連携をより強化し各種施策を前向きに展開していくとともに、SNSや広報のより積極的な活用により、より市民に近い施設を目指した運営を行い、利用者数の安定的増大とともに、農業振興と地域の活性化などの機能発揮に努めるものとする。

所管課による総合評価(所見)

アグリパークの設置目的及び事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によって、ゴールデンウィーク前後の約20日間を臨時休業としたほか、県をまたぐ移動の自粛要請を踏まえて宿泊施設を6月半ばまで休業するなど、感染防止のために施設の利用制限を行わざるをえなかったことから、入場者数などの評価指標は要求水準を達成するのが困難な状況であった。一方で、来場者の満足度は95.5%と、目標を大きく上回った。これは、感染症対策に係る施設マニュアルを早期から丁寧作成し、利用者の安心・安全に配慮した対応を行ったことや、コロナ禍でも楽しめる創意工夫を凝らした体験を実施したことなどが、高い評価につながったものと考えられる。

今後も感染防止の対策を行いながら、特色ある体験メニュー等をさらに充実させ、引き続き多くの方に満足いただける施設となるよう取り組んでいきたい。